

貯金箱は消え去るのか?! (メルマガ 2022 年 2 月号)

幼い頃、貯金箱には夢が詰まっていた。プラモデルや玩具などを買いたいと、わずかなお小遣いを貯金箱に納め、だんだんと重くなる様子を嬉しく思っていました。硬貨が貯まると、親が 1 円、5 円、10 円の山を金融機関に預け入れて多少まとまったお金に換えてくれたことを思い出します。

この「硬貨の預け入れや振り込み」について、ゆうちょ銀行が今年 1 月 17 日から手数料を有料化したことがニュースとなりました。すでに昨年うちに、数々の金融機関が次々に硬貨に係る手数料を新設している中であって、ゆうちょ銀行は最後の砦的な存在としてクローズアップされたのだと思います。手数料無料の枚数については、金融機関によって「100 枚まで、300 枚まで、500 枚まで」などと様々ようです。

ゆうちょ銀行では、「ATM で預け入れする場合は硬貨の種類に関わらず 1 枚から手数料がかかる」とありますから、なおさらニュースになる理由も分かります。ゆうちょ銀行 ATM で硬貨を預け入れると、1 枚 (1 円) でも手数料 110 円が発生します。また、51 枚からは 100 枚での手数料は 330 円になりますから、10 円玉 100 枚 (ATM では一度に 100 枚までが限度) で 1000 円を預けると 330 円が手数料として消えてしまう訳です。

こんなにも手数料がかかるものかと思いましたが、硬貨の取扱いは専用の機器で種類や枚数を計算し、変形したり汚れたりした硬貨がある上、外国の硬貨やゲームのメダルなどが混じることもあり機器が故障することもあるそうです。ゆうちょ銀行では年間数億円ものコストがかかるそうですから、ある程度ならば理解できる点もあります。

また、硬貨の問題と並行してキャッシュレス導入の議論もありますが、これからは現金でもクレジットやスマホの決済でも、そこには何らかのコストが発生していることを承知しておかなければならないという訳なのでしょう。

「それならば、貯めた硬貨で買い物をしよう」と思っても、「通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律」によって 1 種類につき 20 枚までと規定されていて、お店は多額の受け取りは拒否することができますので、硬貨を抱えて買い物をすることにも限度があります。ですから、貯金箱に硬貨を貯めても扱い方に苦労する時代を迎えたと言えます。

ニュースでは、小銭を多く扱う商店、神社の御賽銭や募金活動等での硬貨の取扱いについて、「困った」との声が紹介されていました。募金の 1～2 割が手数料になると 1 億円の募金に対して 2000 万円の手数料がかかるわけですから、善意の募金手数料でこれほど減少してしまうことは残念です。募金や災害義援金など、善意に基づく入金については、手数料がかからない金融機関もあるそうですが、善意のお金手数料で大きく減少してしまうことのないよう、金融機関には引き続き配慮を期待したいものです。

いずれ将来、キャッシュレス化が社会全体で伸展し、「お年玉はカードに入金しておいたよ」で済ませる時代になったとしても、一円の価値の理解と、貯金箱にコツコツと貯金したときの気持ちは、忘れ去られることのないよう引き継ぎたいものです。(N.W)